

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日(火)

3. 調査の対象

泉佐野市立第三小学校 第6学年、全児童

実施児童数(22 人)

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国より低い。平均正答数の全体的な分布状況は、下位層が多く、上位層が少ない傾向がみられる。

平均正答率（本校 58／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p><正答率が全国よりも10Pt以上低い問題・正答率が40%を下回っている問題></p> <p>2一（2）登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることに課題がある (59.1/70.6)</p> <p>2三 表現の効果を考えることについて課題がある (36.4/59.2)</p> <p>3一 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることについて課題がある (45.5/69.2)</p> <p>・作者がその表現の中に含ませた僕の感情を読み取ることができていない。</p> <p>3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることについて課題がある。 (31.8/37.7)</p> <p>3三ウ 学年別配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことについて課題がある（したしむ (54.5/67.1)</p> <p>3四 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことについて課題がある (59.1/77.9)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題と考えられる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30字以内までの記述問題では無回答率が低いですが、60字以上100字以内の問題では無回答率が高くなる。問題を読んで自分の考えとしてまとめることに課題がある。 </div>	<p><正答率が全国よりも高い問題・正答率が80%を上回っている問題></p> <p>1一 話し言葉と書き言葉との違いを理解することについて、おおむね理解できている (81.8/85.6)</p> <p>1二 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることについて、おおむね理解できている (81.8/68.8)</p> <p>3三イ 学年別配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことについて、おおむね理解できていた（はんせい） (59.1/58.7)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に無回答が少ない。 ・他者を認める発言について適切なものを選ぶことができた。普段から相手と自分の言葉をつなげて話し合う経験が生きていると思われる。 ・漢字についても無回答は少なかった。しかし、普段から使わない漢字に対しての誤答が多かった。 </div>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好き	63.7	59.2		4.5
国語の勉強は大切だと思う	100	93.3	◇	6.7
国語の授業の内容はよくわかる	86.4	84.0		2.4
国語の授業で学習したことは、将来役に立つ	90.9	91.8		0.9

- 国語の学習は好きであると答えた児童の割合が比較的高い。授業の内容がよくわかると答えた児童の割合も比較的高く、国語の学習内容としてはおおむね理解できていると考える。
- 国語の勉強は大切である（100%）、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童は多く、国語の授業の有用性については理解している。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国より低い。平均正答数の全体的な分布状況は、下位層が多く、上位層との二極化が見られる。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p><正答率が全国よりも10Pt以上低い問題・正答率が40%を下回っている問題></p> <p>1（2）二つの数の最小公倍数を求めることについて課題がある (45.5/72.2)</p> <p>1（4）示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することについて課題がある (36.4/34.8)</p> <p>2（2）百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることについて課題がある (54.5/64.6)</p> <p>2（3）示された場面のように、素量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある (22.7/21.4)</p> <p>3（4）加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述することについて課題がある (45.5/67.7)</p> <p>4（2）図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することについて課題がある (72.2/83.2)</p> <p>4（3）図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解することについて課題がある (54.5/66.5)</p>	<p><正答率が全国よりも高い問題・正答率が80%を上回っている問題></p> <p>1（1）被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることについて、おおむね理解できている (86.4/92.4)</p> <p>1（3）示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することについて、おおむね理解できている (77.3/76.0)</p> <p>4（1）正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することについて、おおむね理解できている (50.0/48.8)</p> <p>4（4）示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断することについて、おおむね理解できている (59.1/57.6)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好き	59.1	62.5		3.4
算数の勉強は大切だと思う	95.4	94.2		1.2
算数の授業の内容はよくわかる	81.8	81.2		0.6
算数の授業で学習したことは、将来役に立つ	95.5	93.3		2.2
算数の授業で、普段の生活で活用できない考える	68.2	69.3		1.1
算数の授業で、公式やきまりのわけを理解するようにしている	81.8	85.7		3.9
算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	63.7	80.4	○	16.7
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	68.2	76.8	◇	8.6

- 算数の学習は好きであると答えた児童の割合が国語に比べて、また全国と比較してもやや低い。学習の内容がよくわかると答えた児童の割合は比較的高く、算数の学習内容としてはおおむね理解できていると考える。ただ、学力状況調査の平均正答率を観点別に見たとき、「思考・判断・表現」より「知識・技能」の方が、全国との差が大きい。理解したことを記憶に定着させる工夫が必要である。
- 算数の勉強は大切である、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童は多く、算数の授業の有用性については理解している。
- 算数の問題を解くときに、あきらめずに考えたり、工夫してもっと簡単に解く方法を考えようとしたりする意欲がやや低い。学力状況調査の結果と合わせて分析すると、解き方がわからない問題や情報量が多い問題に対し無回答の割合が高くなっている傾向がある。粘り強く自分で解決方法を見出す力をつけていきたい。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国より低い。平均正答数の全体的な分布状況は、下位層が多く、上位層が少ない傾向がみられる。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p><正答率が全国よりも10Pt以上低い問題・正答率が40%を下回っている問題></p> <p>1（5）観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある（45.5/65.5）</p> <p>2（2）メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けることについて課題がある（54.5/70.0）</p> <p>2（3）自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことについて課題がある（50.0/62.8）</p> <p>2（4）自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することについて課題がある（27.3/39.3）</p> <p>3（1）日光は直進することを理解することについて課題がある（9.1/27.8）</p> <p>3（2）問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することについて課題がある（63.6/74.4）</p> <p>3（4）実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することについて課題がある（31.8/35.1）</p> <p>4（3）観察などで得た結果を、結果からいえることで分析して、解釈し、自分の考えをもつことについて課題がある（36.4/45.5）</p> <p>4（4）水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解することについて課題がある（40.9/62.0）</p>	<p><正答率が全国よりも高い問題・正答率が80%を上回っている問題></p> <p>1（1）問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことについて、おおむね理解できている（90.9/92.9）</p> <p>1（2）自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することについて、おおむね理解できている（72.7/67.5）</p> <p>1（3）昆虫の体のつくりを理解することについて、おおむね理解できている（77.3/73.1）</p> <p>2（1）メスシリンダーという器具を理解することについて、おおむね理解できている（81.8/67.8）</p> <p>3（3）自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことについて、おおむね理解できている（72.2/68.9）</p> <p>4（1）観察で得た結果を、問題の視点で分析して、観察し、自分の考えをもつことについて、おおむね理解できている（81.8/82.3）</p> <p>4（2）予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことについて、おおむね理解できている（68.2/64.5）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好き	72.8	79.7	◇	6.9
理科の勉強は大切だと思う	81.8	86.5		4.7
理科の授業の内容はよくわかる	81.8	88.5	◇	6.7
理科の授業で学習したことは、将来役に立つ	77.3	77.2		0.1
理科の授業で、普段の生活で活用できない考える	77.3	67.9	◇	9.4
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う	27.2	26.6		0.6
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てますか	54.6	78.0	○	23.4
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている	77.3	84.9	◇	7.6
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている	72.7	72.2		0.5

- 理科の学習は好きであると答えた児童の割合が国語・算数に比べて高いが、全国と比較すると低くなっている。
- 理科の勉強は大切であると考えている児童がやや少なく、好きと答えている児童が多くないことと重ねて、授業の内容がよくわかるという児童が、国語・算数、または全国の平均よりも低くなっている原因ではないかと思われる。
- 理科の授業における観察や実験について、計画を立てたり、結果を考察したりする児童が比較的少なく、理科に取り組む姿勢にも課題を感じる。
- 予想をもとに観察や実験を行うことを充実させることで、「結果からどのようなことが分かったのか」、「授業内容がよくわかる」、「理科の勉強が好き」につながるのではないかと考える。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【学校生活の様子】	<p>学校が楽しいと感じてくれている児童が多くいます。さらに、いじめはいけないことだと思ふ意識や友だちを助ける思いの強い児童たちが多く、たいへん協力的なクラスです。</p> <p>困りごとや不安なこと、勉強で分からないことを学校で先生に相談したり聞いたりする児童は多いようです。</p>	<p>○学校に行くのは楽しい <95.5/85.4></p> <p>○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思ふ <92.0/96.8></p> <p>○人が困っているときは、進んで助ける <95.5/96.8></p> <p>○友達と協力するのは楽しい <90.9/94.0></p> <p>○困りごとや不安がある時に、先生などに相談する <86.4/68.1></p> <p>○家で学校からの課題で分からなかったとき、先生に相談する <50.0/38.6></p>
【学校での学習の様子】	<p>授業の中で、自分の考えを伝える工夫をする児童は少ない、課題解決に向けて自分から取り組んでいる児童が少ないなど、積極的に学習する意欲を持っている児童が少ないことが気になります。一方、自分の思いや考えをもとにした創作については取り組んでいます。</p> <p>学習した内容について振り返りを行い、次の学習に繋げる児童がやや少ないようです。</p>	<p>○授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した <63.7/65.4></p> <p>○授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ <72.7/77.3></p> <p>○授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた <81.8/73.2></p> <p>○授業で、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた <86.4/68.4></p> <p>○授業は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた <72.7/80.1></p> <p>○学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげた <59.1/78.2></p> <p>○学級での話し合い活動により、解決方法を決めている <77.2/73.5></p>
【自尊感情】	<p>自尊感情が高い児童が多く、将来への夢や目標をしっかり持ち、自立への意識も高いと思われます。少しチャレンジする思いが低いことが気になります。</p>	<p>○自分には、よいところがあると思ふ <81.8/79.3></p> <p>○将来の夢や目標を持っている <90.9/79.8></p> <p>○人の役に立つ人間になりたい <95.4/95.1></p> <p>○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている <90.9/87.2></p> <p>○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している <68.2/72.5></p> <p>○人が困っているときは、進んで助けている <100/88.9></p>

<p>【家庭学習の様子】</p>	<p>自分で計画を立てて勉強をしている児童が多いようですが、学習時間に二極化が見られます。ほとんど家庭学習をしていない児童が少なくないことも気になります。</p> <p>読書が好きだと答えた児童は少なくないのに、読書に対する関心があまり高くないのか、読書時間は短いようです。読書を全くしない児童が多いことも気になります。</p>	<p>○家で、自分で計画を立てて勉強をしている <77.2/71.1></p> <p>○学校の授業時間以外に、平日に1日当たり30分以上しか勉強をしない <27.3/14.7></p> <p>○学校が休みの日、3時間以上勉強をしている <27.2/13.6></p> <p>○学校が休みの日、勉強を全くしない <22.7/12.3></p> <p>○読書は好き <77.3/72.1></p> <p>○学校の授業時間以外に、普段、30分以上読書をする <27.2/36.4></p> <p>○学校の授業時間以外に、普段、まったく読書をしない <40.9/26.3></p>
<p>【家庭生活の様子】</p>	<p>朝食や起床時間など朝の生活習慣は身につけているようですが、就寝時間が決まっていない児童が多いことが気になります。</p> <p>スマホ等について家の人との約束が不十分なこと、テレビゲームやSNSや動画視聴をする時間がやや長いことが気になります。一方、テレビゲームなどをほとんどしない児童も多くいます。</p> <p>地域をよくしようと考えている児童が多くいます。</p>	<p>○朝食を毎日食べている <95.5/94.4></p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に寝ている <54.5/81.5></p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に起きている <91.1/90.4></p> <p>○スマホやコンピュータの使い方について、家の人との約束を守っている <54.5/71.5></p> <p>○普段、テレビゲームを2時間以上する <54.5/50.2></p> <p>○普段、テレビゲームは1時間以下しかしない <40.9/23.9></p> <p>○普段、SNSや動画視聴を2時間以上視聴する <54.6/32.5></p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている <72.8, 51.3></p>
<p>【ICT機器の活用】</p>	<p>ICTを活用した授業については、大阪府や国の状況とは比べられないぐらい進んでいると考えられます。</p>	<p>○授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上（ほぼ毎日）使用している <86.4/58.2></p> <p>○授業中に自分で調べる場面で、ICT機器を、週3回以上使用している <86.4%/58.2></p> <p>○週1回以上使用している <100/76.1></p> <p>○学級の友達と意見を交換する場面で、ICT機器を、週3回以上使用している <41.1/22.5></p> <p>○自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器を週3回以上使用している <31.8/21.7></p> <p>○普段、ICT機器を、勉強のために30分以上使っている <90.9/73.8></p>

本校の取組

◎これまでの取組

本年度の研究主題を「自ら考え、学びを深め合う子どもの育成～協働学習と ICT の活用を通して、主体的に探究する力の向上を図る～」とした。ICT 機器の活用を研究テーマに掲げ、市内でも先行的に ICT 授業を進めてきたことを自負している。「情報活用能力単元一覧表」には年間を通じて ICT を活用する授業が示されており、学年ごとに子どもたちの ICT 活用スキル到達目標を示し子どもたちのスキルの上達をめざしている。全教職員で ICT 教育に取り組む環境が整っていると言える。児童質問紙においても子どもたちの ICT 機器の活用については大阪府や全国の平均値を大きく上回った。「自ら考え、学びを深め合う力」の育成手段の一つとして、Chromebook のジャムボードなどのツールを活用しながら『協働学習』を進めている。スキルの部分でもお互いに教え合ったりすることが増えているし、他者の意見を参考にしながら発展的に自分の意見を考え直す場面なども見られている。教科授業以外でも様々な場面で Chromebook を活用したり、支援学級での授業にも Chromebook を活用したりすることで、『個別最適』な学びの充実にも取り組んでいる。

本年度の学力向上の取組の柱として「情報活用スキルルーブリック」の活用を挙げている。ルーブリックを ICT 活用授業以外にも取り入れながら振り返りを視覚化することで、“めあてから振り返り”“振り返りから次時のめあて”の流れができ、「指導と評価の一体化」が進み、教師の授業力向上へとつながっているように感じている。また、子どもたちは振り返りを“個々の課題の発見”や“主体的に学びに向かう姿勢”へとつなげ、子どもたちの主体的な学習活動の広がりへとつながっている。さらに、本年度から「コグトレ・オンライン」を導入し、子どもたちの認知機能を高めていく取組を始めた。本年度の学力・学習状況テストでは、短答式・記述式の問題において無答率が高い傾向が見られた。自信のなさも一つの原因であると考えられるが、認知機能の育成により注意力や想像する力、判断する力を高め、本人のもつ力がより高く発揮できるように努めていきたい。また認知機能の育成はすべての学習の土台になるものであり、結果として正答率の向上にもつながると考えている。一方、本校が課題としている「書く力」の育成に力を入れる必要性も感じている。ICT の利活用時にタイピング入力だけを求めるのではなく、手書き入力や別用紙でのメモも手段として選択させるようにし、意見や思いを「書き留める」ことを大切に考えたい。

本年度の6年生は自尊感情が高く、主体的な取り組みのできる子どもたちが多いと思われる。ほとんどの児童に授業に真面目に取り組む姿勢が見られるが、まだまだ自分で学習計画を立てることや自分で考えをまとめたりうまく伝えたりするための工夫ができるころまで至っていない。まだまだ指示待ちの状況が見られ、粘り強く自分で解決していく力がついていないように感じる。また、家庭での学習時間にも二極化が見られることが少なからず影響していると思われるが、平均正答率にも二極化が見られる。また、中位層が伸び悩んでいる兆候も見られる。ICT 機器の活用に加えて、基礎・基本的な学びをしっかり押さえることも大切だと考えている。また、「自学」の取組をさらに子どもたちの中に定着させ、内容を高めていく取組を進めている。保護者への呼びかけも含めて家庭学習の充実にさらに力を入れていきたい。

◎これからの取組

「自分の思いをまとめ、伝える力」の不足は数年前から本校が課題として挙げていることである。Chromebook を活かした「協働学習」に取り組んでいるが、今後さらに知識の詰め込みではなくいかにその知識を活用し社会において役立つ資質・能力を育てるかに重点を置き、お互いの考えや意見を深め合い、新たな創造を生み出す力の育成に取り組むたい。「ルーブリックの活用」がその一助になると考えているので、さらに充実させ、「情報活用能力」の育成とともに『自ら探求する力』へとつなげていきたい。ICT 利活用は、時には子どもたちの健康や安全を脅かす存在になりうることを、学校も保護者も子どもたちも共に自覚した上で、「デジタルシチズンシップ教育」を進め、「ICT の善き使い手」になることをめざして取組を進めている。具体的には、新たな取組をスタートさせるのではなく、これまでの取組を充実させていきたいと考えている。

- ① ICT 機器の活用による「協働学習」と「個別最適化」の具体的実践
- ② 「情報活用能力重点単元一覧表」「情報活用スキルルーブリック」「ICT 活用スキル到達目標」の活用
- ③ 家庭学習の充実・「自学」の取組、家庭への情報発信
- ④ 「コグトレ・オンライン」を活用した認知機能の育成
- ⑤ 校外への情報発信、関係諸機関との連携